

| 関係委員意見聴取書面  |   |
|---|---|
| 関係委員<br>(敬称略)   | (所属) 東京農工大学大学院 農学研究院 教授<br>-----<br>(氏名) 五味 高志  |
| 聴取日   | 令和3年10月6日(金)  |
| 聴取者   | 環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室審査官 佐藤、浮田  |
| 要領4.(2) 利害関係者の除外  |   |
| ・意見聴取しようとする事業に係る利害関係の有無。<br>利害関係 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無  |   |
| 要領4.(3) 秘密保持の承諾   |   |
| ・環境影響評価法手続きに基づき作成される図書に含まれる希少な動植物種の生息・生育地の情報その他の秘匿すべき情報を外部にもらさない旨の承諾。<br>_____ <input checked="" type="checkbox"/> 承諾 _____ 非承諾 |   |
| < 関係委員意見概要 >  |   |
| 土地の安定性について  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・盛土が多く切土の2倍もあり、外部から土質が不明な土砂が搬入される予定となっていることに加え、特に北西エリアは谷埋めによる盛土が多いため、減らす工夫が必要。</li> <li>・一断面のみでボーリング調査が実施されているが、他の大規模な盛土を実施する箇所でも地質調査を実施し、現地盤の状態について確認する必要がある。また、切土地点も含め室内試験により詳細に土質を確認する必要がある。</li> <li>・斜面崩壊は排水が原因ではない可能性もあるため、降雨時の地下水の状態やすべり面を確認しつつ、過去に崩壊したところは表層地盤が浮きやすくなっていることも考慮し、対策の必要性について検討する必要がある。</li> <li>・粘性土と仮定して予測を行っているが、盛土の適切な施工管理について、実際に使用される土砂の土質により、丁寧に検討する必要がある。また、盛土量が多いため、一様な土質の土砂ではない可能性についても考慮が必要である。</li> </ul> |